

編集後記

今年の日本の夏は、まさに「半端ない」猛暑でした。埼玉、岐阜では最高気温が41℃という、人間の体温を大きく超える未知の領域に入り、連日全国各地で熱中症患者が発生しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックを含め、今後の日本社会に異常気象が及ぼす影響が懸念されています。

7月29日から8月2日まで、ハワイ、カウアイ島で開催されたSpine Across the Sea（北米脊椎外科学会・日本脊椎脊髄病学会合同会議）に参加してきました。現地の最高気温は28℃程度。日差しは強いものの、爽やかな風が心地よく感じられました。これからは、「ハワイに避暑に行く」時代になるかもしれません。折しもハワイでは、7月からポリエチレンのレジ袋を有料化する法律が施行されたばかりでした。スーパーマーケットはもとよりデパートや高級店に至るまで、買い物の際はショッピングバッグを持参するか、レジ袋を15セントで購入しなければなりません。2020年にはレジ袋は完全に廃止されるそうです。パリ協定離脱なドランプ大統領の逆行する政策とは裏腹に、州単位では「環境保全」「地球温暖化対策」に向けた取り組みが一步步進められているようです。

今年の異常気象は日本に限ったものではなく、北米、ヨーロッパ、中国などでも50℃を超える異常高温や大洪水などの被害が伝えられています。地球が「ヒ

トの住める星」であり続けるためには、いよいよ世界規模で地球温暖化対策に本腰を入れていくべきなのでしょう。日本でも米国に倣って市民生活レベルからの取り組みが求められているのだと思います。もっとも、まずは大国のリーダーたちの考え方を変えてもらうのが先決かとは思いますが。

今月号の特集は「間葉系幹細胞治療の現状と課題」です。本特集の論文で示されている研究の多くがそうであるように、近い将来に様々な再生医療が実用化されることが期待されます。その一方で、美容外科領域などで有効性が不明瞭な「幹細胞治療」が横行していることも事実です。岩田 久先生には、再生医療の申請を審査されているお立場から、現状における再生医療の問題点・課題について指摘していただきました。

篠田達明先生による「医療史回り舞台」では、「『北海道』命名150年に想う」と題して、開拓当時の蝦夷地を探検した松浦武四郎が紹介されています。筆者は北海道生まれ、北海道に住んでいるにもかかわらず、恥ずかしながら「北海道」命名のいきさつや、松浦武四郎の関与について全く知りませんでした。新政府の方針に逆らってまで、アイヌの人々の生活を尊重し保護しようとした松浦武四郎のような崇高な精神の持ち主が、150年も前にいたということに深い感銘を受けました。（山下敏彦）

「整形・災害外科」第61巻 第11号（10月号） 2018年10月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。